

旭丘・小竹地域における保護者および地域説明会等で寄せられた
主な意見等に対する区の考え方

I 小中一貫教育等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
1	○中学受験をする児童も多い中で、小中一貫教育校のメリットだけでなく、デメリットについても議論してほしい。	○区では、全ての小・中学校で、中学校区を基盤として「学力・体力の向上」「豊かな人間性・社会性の育成」「安定した学校生活」を柱に様々な連携活動を実施するなど、小中一貫教育の取組を推進しています。 ○施設一体型については、「教員間の連携強化」「異学年交流の活性化」「同一施設内での円滑な移行」等のメリットがある一方で、人間関係が固定化されやすい、児童・生徒が区切りを意識して新たな学校生活をスタートさせるのが難しいなどのデメリットもあります。 ○こうしたデメリットについては、クラブ活動や移動教室等の様々な機会を捉えて6年生がリーダーシップを発揮できる場を創出するなど、学年の枠にとられない弾力的な教育活動と小学校・中学校の区切りを意識したメリハリのある教育活動の両立ができるよう取り組んでいきます。
2	○3校の校長先生の話聞いて、子どもたちが学校間の交流を楽しみにしている様子がよく分かった。	○新たな小中一貫教育校は、区としては初めての改築を伴う施設一体型の一貫校となります。これまで3校が取り組んできた小中一貫教育の取組や交流活動、3大学との連携等の活動をさらに充実させるなど、引き続き、保護者や地域等のご意見を伺いながら旭丘・小竹地域の特性を活かした魅力ある学校づくりを進めていきます。
3	○大泉桜学園にも特別支援学級はあるのか。小中一貫教育校になることにより、どのような効果があったか。	○大泉桜学園には特別支援学級はありません。 ○現在、旭丘小学校の特別支援学級と旭丘中学校の特別支援学級では、定期的に合同の調理実習などの交流を実施しています。施設一体型の小中一貫教育校になることで、より日常的に交流学習等を行うことができると考えています。
4	○新校の開校にあたり、現在の教員が総入替えになるなど、大幅な異動はあるのか。	○小中一貫教育校の開校にあたっては、その運営が円滑に進むよう、教職員の配置については十分配慮していきます。なお、大幅な異動は考えていません。

5	○校歌はどうなるのか。	○新校の校歌については、児童・生徒や保護者、教職員、地域のご意見を伺いながら検討していきます。 ○大泉桜学園では、当時の児童・生徒を対象に校歌に入りたい言葉を募集し、小学校・中学校の統一校歌を制作しました。
6	○標準服（制服）はどうなるのか。	○新校の標準服（制服）については、小中一貫教育校推進委員会を中心に、保護者や地域等のご意見を伺いながら導入の有無等を検討していきます。
7	○小竹小学校の児童は、卒業後どの中学校に進学するのか。	○就学予定者が就学すべき小学校または中学校は、お住いの住所地に基づいて教育委員会が指定しており、小竹小学校の児童については、原則として旭丘中学校へ進学することとしています。
8	○小中一貫教育校となる場合、通常の小学校の教育プログラムを終了した児童が編入することは可能か。可能である場合、デメリットの有無も教えてほしい。	○区では平成 17 年度から区立中学校の選択制度を実施しており、保護者・生徒自身が、各学校の通学区域外からの受け入れ可能人数の範囲内で、通学区域外の中学校を選ぶことができます。 ○施設一体型の小中一貫教育校も中学校選択制度の対象としており、他の小学校から一貫中学校へ入学したり、一貫小学校から他の中学校へ進学したりすることも可能です。 ○また、小中一貫教育校であっても、授業の先取り等は行わず、学習指導要領に基づいて学習指導を行っているため、他の小学校からの入学や他の中学校への進学に対しても支障がないよう対応しています。
9	○小竹小学校はいつの段階で新校に合流することになるのか。	○新たな小中一貫教育校の設置については、児童生徒数・学級数の現況および将来推計を踏まえ、旭丘小学校と旭丘中学校を先行して準備を進めています。 ○小竹小学校については、今後の児童数の動向や 35 人学級の実施、社会状況の変化等を見定めつつ、引き続き、保護者や地域等のご意見を伺いながら検討していきます。
10	○小竹小学校の児童が学年の途中で学校を変えることは避けたい。	○今後の進捗状況については、定期的に説明会を開催するなど、児童・生徒や保護者、地域の皆様に対し、引き続き丁寧に情報提供を行ってまいります。
11	○地域の子どもたちが机を並べるのは、小学校ではなく中学校だと思う。小竹小学校を残してほしい。	

II 設計・学校改築等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
12	○建替えを早くしてほしい。	○旭丘小学校・旭丘中学校については、旭丘・小竹地域における過小規模の解消、施設の老朽化、小中一貫教育の推進など複合的な課題を解決するため、「練馬区学校施設管理実施計画（平成31年3月）」および「練馬区公共施設等総合管理計画〔実施計画〕（令和2年3月）」に基づき、令和2年度から基本設計に着手し、3年度も当初の予定通り実施設計を進めます。 ○児童・生徒と近隣への安全性の確保と周辺環境への配慮を行ったうえで、必要な工事期間を検討し、建替計画としてお示ししています。 ○また、新校や施設に必要な機能を検討し、適正な規模の建物とすることでコストに配慮していきます。 ○なお、コロナ禍に伴う厳しい財政見通しを踏まえ、令和3年度に着手する予定であった学校2校の設計着手を延期しました。
13	○コロナ禍で工事が遅れないようにしてほしい。	
14	○コロナ禍で財政がひっ迫している中、なぜ今改築するのか。	
15	○1学年2クラス×9学年で18教室とのことだが、今後の児童・生徒数の動向は。	○普通教室は、向こう5年間の将来人口推計である東京都教育人口等推計等を踏まえ、小学校・中学校ともに各学年2クラスを想定して設計しています。 ○また、旭丘小学校・旭丘中学校の児童・生徒に加え、小竹地域から新校への小学校就学希望が一定程度あった場合も受入れ可能な規模に設定しています。
16	○開校後に人気が出て2クラス以上になった場合、対応できるのか。	○併せて、小学生と中学生の普通教室の面積を統一して、クラスの増減に柔軟に対応するとともに、少人数教室の転用等の教室の利用方法見直しにより、将来の児童・生徒増に対応できる計画としています。
17	○基本設計の中に2か所ほどしか特別支援学級についての記載がないが、この計画が特別支援学級におよぼす影響があるのか。	○特別支援関係諸室には、知的障害学級、難聴学級、特別支援教室があり、防音や視線への配慮など、障害の特性に応じた設備や教室の配置を計画しています。

18	○校舎棟 2 階に中学生の教室と職員室が集中しているが、小学生、特に低学年まで目が行き届くのか。	○小学校低学年の普通教室を職員室に近い 2 階に配置するなど、安全確保に努めていきます。
19	○保健室の位置が普通教室から離れているように思うが、理由があるのか。	○北棟・南棟ともに、児童・生徒が怪我をした場合等に迅速に対応できるよう考慮し、体育館と校庭の近くに保健室を配置しています。
20	○ P T A 室は設置されるのか。	○区では、学校施設の標準化の考え方にに基づき、今後改築する学校においては P T A 専用室を設けないこととしています。 ○ P T A 専用室を設置していない学校では、会議室等を P T A の活動場所として利用するなど、学校運営の中で柔軟に対応しています。
21	○正門のほかに東門があるが、こちらからも登校できるのか。	○正門と東門をどちらも使用できる計画としています。具体的な使い方については、安全性と利便性のバランスを考慮しながら、地域や児童・生徒、学校と意見調整をして検討していきます。
22	○配置計画資料の南側敷地の右下とテニスコートの右下にある灰色の箇所は何を示すのか。	○消防団格納庫の設置場所になります。
23	○校庭を人工芝にしてほしい。	○校舎等の建物が校庭におよぼす日影の影響を検証した結果、冬至においても校庭の半分以上は日影の影響を受けず、利用が可能なことから、通常のダスト舗装としています。 ○なお、近隣への砂防対策について、配慮していきます。
24	○子どもが自然に触れる機会が少ないため、屋上緑化に加え、ビオトープ、菜園などの自然観察や息抜きができる場を設けてほしい。	○現在、旭丘小学校東側の畑や菜園を授業や交流活動等で活用しています。新校舎整備後も同様に活用できるように、現旭丘小学校プール付近に新たな学級菜園を整備する予定です。

25	○北側校庭をもう少し狭くして、公園を作ってほしい。	○児童・生徒の授業や部活動等の安全性に配慮し、校庭は2つの敷地に分けてそれぞれ計画しています。 ○また、児童・生徒の運動スペースの確保の観点から、北側校庭は120m以上トラック、直線50m以上を確保する計画としています。こうしたことから、公園の整備は困難です。
26	○通学路が狭いので、道路を拡張してほしい。工事期間中の子どもたちの交通事故も心配である。	○練馬区まちづくり条例に基づき、学校敷地に接する道路のうち、幅員が6メートル未満の道路については、道路中心線から3メートルの位置まで、学校敷地側にセットバックして拡幅します。
27	○学校周辺の通学路はガードレールなどがなく狭い。敷地をもっとセットバックして道路を広げられないか。	○なお、工事期間中の安全管理については、施工業者が決定後、交通誘導員の配置等を含め検討していきます。
28	○小学校と中学校の間にある道路はなくなるのか。	○旭丘小学校と旭丘中学校の間にある区道は、廃道しない計画としています。児童・生徒の敷地の行き来については、校舎2階部分で接続する渡り廊下を利用します。
29	○敷地の一部に都市計画道路が予定されていると思うが、問題ないか。	○都市計画道路予定地が第一校庭の南西角の端に位置するようにすることで、将来的に道路ができた場合でも大きな影響がない計画にしています。
30	○工事期間中に、一時的に仮校庭が小さくなる期間がある。この間は、運動会や部活動等をどのように行っていくのか。	○校庭については、工事工程ごとにできるだけ屋外運動スペースを確保できるように検討していきます。 ○部活動等については、校内の運動スペースの確保と併せて、校外施設の利用についても検討していきます。
31	○災害が発生した場合、避難拠点として何人くらいの収容を想定しているのか。	○区では、目安として各避難拠点(学校)に700人程度の避難を受け入れられるスペースや備蓄物資を確保しています。新校については、現状の旭丘小学校と旭丘中学校を併せた1,400人程度の想定となります。

32	○東日本大震災の経験を活かした学校づくりをしてほしい。	○現在、旭丘中学校の体育館は2階にありますが、新校では第一・第二体育館ともに1階に設置し、防災備蓄庫を各体育館付近に設置するなど、避難拠点としての利便性がより高くなるよう整備します。
33	○現在、旭丘中学校は災害時の医療拠点と聞いている。児童・生徒の保護のために、防災拠点としての設備を充実してほしい。	○旭丘中学校については、引き続き、医療救護所として指定し、訓練等を実施し、災害時に対応できるように地域の方々と連携して避難拠点運営を進めていきます。
34	○旭丘中学校の相撲場はどうなるのか。	○相撲場については、町会等の地域の関係者や学校等のご意見を伺いながら検討しています。
35	○旭丘小学校の校庭の「あさひ山」はどうなるのか。当時子どもたちが作ったものなので、残してほしい。	○現在「あさひ山」がある位置は新校舎建設予定地となるとともに、敷地内に別のスペースを確保することが難しいため、残すことは困難です。
36	○旭丘中学校 15 回生卒業記念のクマの銅像の位置は変更するのか。	○旭丘中学校は敷地全体が工事の影響を受けてしまうため、今後の対応については、学校や地域と調整しながら決めていきます。
37	○体育館横のテニスコートについて、地域のサークルや住民が利用できるようにしてほしい。	○学校施設の利用については、現状の地域利用の状況等を踏まえ、学校とも協議しながら検討していきます。

Ⅲ 複合施設等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
38	○学童クラブは栄町からの移転なのか、ねりっこクラブの新設なのか。	○新校には、校内学童クラブ（または校内ねりっこ学童クラブ）を設置して運営します。
39	○小竹小学校には学童クラブはできないのか。	○区では現在、全ての小学校でのねりっこクラブの実施を目指しています。小竹小学校については、今後の動向等を見定めながら検討していきます。
40	○複合施設に保育園を入れてほしい。	○区では、保育所待機児童を解消するため、民間認可保育所の新設等により、大幅な入所定員の増を図ってきました。当地域においても、複合施設の完成を待つことなく、入所定員は十分確保できると見込んでいます。

41	○栄町敬老館は廃止されるのか。	○栄町敬老館は、小中一貫教育校の改築にあわせて複合化し、新たな区民ニーズに応える街かどケアカフェ、地域包括支援センターに機能転換します。
42	○街かどケアカフェとは、具体的にどういう施設か。	○高齢化の進展に伴い、身近な地域での医療・介護の相談ニーズが高まっていることから、地域包括支援センターと併設して、高齢者など地域住民が気軽に集える交流・相談・介護予防の拠点である街かどケアカフェを設置します。
43	○認知症やうつ病の増加に備え、介護予防事業の充実が喫緊の課題だと思うが、現状の予定では施設が狭く不十分である。	○歯科衛生士および管理栄養士による出張講座を行い、介護予防への動機づけと日常生活での取組を支援していきます。また、複合施設のメリットを活かし、併設する児童館と連携して、多世代が交流できる事業を行っていきます。
44	○栄町児童館の移転や、栄町敬老館の街かどケアカフェへの機能転換について、現在の施設を利用している栄町や羽沢一丁目の住民にも説明会の開催を周知徹底したのか。	○説明会の開催にあたっては、区ホームページにおいてお知らせを行ったほか、栄町敬老館、第二育秀苑地域包括支援センターにおいて開催のお知らせを配布しました。 ○新たな小中一貫教育校の設置に伴う周辺施設の集約については、「練馬区公共施設等総合管理計画〔実施計画〕（令和2年3月）」において、老朽化している栄町児童館・敬老館を複合化し、新たな区民ニーズに応える児童館や街かどケアカフェ・地域包括支援センターに機能転換することをお示ししました。
45	○栄町児童館・敬老館の跡地は今後どうなるのか。	○跡地の活用については、建物の劣化の進行や使いやすさなどを考慮しながら検討していきます。
46	○開放図書館、博物館、美術館など、生活文化の伝承や地域住民との交流の場所を設けてほしい。	○図書館の開放については、現状の地域利用の状況等を踏まえ、保護者や地域等のご意見を伺いながら検討していきます。 ○博物館、美術館を学校内に設置する予定はありませんが、1階の児童昇降口付近に学校の歴史等を展示するメモリアルスペースの設置を検討しています。

IV その他

No.	主な意見	意見に対する区の考え
47	○練馬区全体として、小規模校を統合して規模を大きくする計画は今後も続いていくのか。	○区としては、一定の規模での集団生活や学習活動、クラス替えなど、様々な要素を考慮して適正規模の考え方を検討しています。 ○今後の計画については、35人学級の実施や社会状況の変化等を見定めつつ、子どもたちの学びの環境を確保できるよう検討していきます。
48	○学校づくりを進めるにあたり、住民参加の1つの手法としてワークショップがある。施設ができた後も住民から愛されるような学校にするため、設計の段階からワークショップを開催するとよい。	○これまで定期的に保護者や地域の方を対象とする説明会を開催するとともに、令和元年10月に保護者や地域の代表および学校長等で構成する小中一貫教育校推進委員会を設置するなど、地域の方々のご意見を伺いながら開校に向けた検討を進めています。 ○今後も、きめ細かく検討状況をお伝えし、ご意見をお伺いしていく必要があると考えています。引き続き、保護者や地域の皆様にご相談、ご協力いただきながら検討を進めていきます。
49	○説明会において、これまでの経緯の説明が必要だと思う。	○今回の説明会では、これまでの検討経過の概略をご説明しました。次回以降の説明会については、いただいたご意見を踏まえて検討していきます。 ○なお、これまでの検討経過等の詳細につきましては、区公式ホームページに掲載しています。 練馬区ホームページ > 子育て・教育 > 教育 > 学校教育・施設 > 小中一貫教育の推進 > 施設一体型小中一貫教育校 > 現在進めている取組 (旭丘・小竹地域における新たな小中一貫教育校)
50	○説明会の開催等については、子どもを持つ世帯にもっと周知をお願いしたい。	○説明会の開催にあたっては、旭丘小学校・小竹小学校・旭丘中学校の保護者の方のほか、近隣の合計12の幼稚園・保育所の保護者の方に開催のお知らせを配布しました。 ○今後も、きめ細かく検討状況をお伝えしていく必要があると考えています。保護者や地域の皆様にご相談、ご協力をいただきながら、しっかりと情報提供に努めていきます。